

「第37回 日本産業技術大賞 審査委員会特別賞」受賞について
～臭気解消とエネルギーの有効利用への取組み～

記者各位

当社(社長:西尾 進路)グループの原油中継備蓄会社である新日本石油基地株式会社(社長:淵脇 哲朗、鹿児島県鹿児島市、以下「新日本石油基地」)は、日刊工業新聞社より、「原油タンカー排出ガス処理設備」に対し「第37回 日本産業技術大賞 審査委員会特別賞」を受賞しましたのでお知らせいたします。

「日本産業技術大賞」は、大型産業設備・構造物の開発、先端システム技術の開発、地球環境保全に効果の大きい産業設備の開発等の分野において、独創的な研究によって画期的な成果を実証した企業・グループに対し授与されるもので、当社グループとしては初めての受賞となります。

新日本石油基地では、2004年から臭気成分などの排出ガスの性状把握について、鹿児島大学と産学共同研究を進めてまいりました。

今回、受賞の対象となった本設備は、原油タンカーからの排出ガスを収集・処理する日本で初めての設備で、年間約3,100万m³の排出ガスの処理が可能であり、2007年5月より稼働を開始しています。本設備では、約70%のVOC(揮発性有機化合物)の回収により、エネルギー(原油換算:約10,000KL)を有効利用するとともに、CO₂換算で年間約18,000tの温室効果ガス削減が達成できる見込みです。併せて、排出されるVOCおよび臭気成分の99%以上が削減されます。

また、VOCの回収においては、灯油や活性炭を使用する従来のプロセスではなく、VOCを直接原油で吸収するという、当社グループが独自で開発した世界初のプロセスを用いており、将来的には、中東諸国など産油国での原油出荷基地において、環境対策とエネルギーの有効活用に寄与する技術になりえるものと考えています。

当社グループは、経営理念に「Environmental harmony(地球環境との調和)」を掲げ、「環境への取組み」をCSRの中の最重要分野と位置づけており、今後も地球環境保全に努め、サステナブル(持続可能)な社会の創造に貢献していきます。

以上



原油タンカー排出ガス処理設備

● 別添資料

📎 [設備概要、新日本石油基地の概要\(341.7KB\)](#)